

明桜

明桜レター



幸運を掴む

1学年部主任 鈴木 颯

朝晩の冷え込みが厳しくなった今日この頃、早いもので、今年のカレンダーも残り一枚となりました。二〇一八年は皆さんにとって、どのような一年でしたか。

十月の落ち葉が舞い散る頃には、全校生徒が協力して明桜祭を盛り上げました。一年生は、新しい企画としてフリーマーケットを実施、自分の家から品物を持ち寄って販売し、売上金の一部を募金として寄付しました。二年生は、初めての模擬店を出店し、準備から販売、接客や後片付けまでクラス一丸となつて協力し合う姿が見受けられました。三年生は、最後の文化祭ということで大忙しだったようです。模擬店の出店をはじめ、ステージイベントでも大活躍でした。何より前日祭で開催した合唱コンクールでは、それまでの練習の成果を十分に発揮し、立派な歌声を披露しました。そのひたむきな態度に心が震えたものです。悪天候の中、ご来場いただきました保護者の方々、地域の方々に御礼申し上げます。

さて、今回は「幸運」についてお話ししたいと思います。私が感銘を受けた本に、アレックス・ロピラの『ブッドラック』という書籍があります。今から十四年前に出版された小説ですが、当時、小学生だった私に大きな衝撃を与えてくれました。物語は、幼少時代親友だったマックスとジムが五十年ぶりに再会するところから始まります。マックスが人生で成功を収めている一方、ジム

は仕事も、財産も、すべてを失っていました。羨んだジムは、マックスにこう言います。「君は幸運だ」と。それを聞いたマックスはかつての親友ジムに語り始めました。「運命をわけるクローバーの物語」を。

あらすじはこんなところですよ。マックスが語った「クローバーの物語」では、【運と幸運との違い】【幸運の掴み方】【幸運は誰にでも得ることができる】といった内容が語られています。運は、呼び込むことも引き留めることもできないが、幸運は自ら追い求め、チャンスに備えて下ごしらえをしておけば、必ず訪れるものだというのです。

自分の人生を振り返ってみると本当に沢山のことがありました。その中で私が幸運だと感じた経験は、すべて入念な準備のうえで成り立っていたと思います。勉強や部活動の成果はもちろん、日常生活の小さな幸せでさえも。幸運が訪れないからには、それだけの理由があります。欲するばかりではいけませんし、やるべきことを先延ばしにしてもいいけません。幸運を餌にするような甘い言葉には耳を貸さずにできることをすべてやり遂げたら、焦らずあきらめずに待てば良いのです。そうしたら、後は、必ず幸運が訪れると信じてみてください。

今年も間もなく締めくくりを迎えます。あらゆる可能性に目を向け、一生懸命努力できるものを見つけてください。皆さんが「幸運」を掴むことができるよう、願っています。

学校行事

避難訓練



10月17日に行われました。全校生徒の避難演習や、城東消防署の職員の方々の指導のもと、消火訓練を受けたり、地震体験車に乗って、様々な規模の地震を体験したりして、防災意識を高めました。

吹奏楽部定期演奏会

10月21日に文化会館大ホールで行われました。ゲストにはプロドラマーのさうる透氏をお迎えし、ポップスステージを中心に演奏しました。来場者数は1000人を超え、大盛況でした。



薬物乱用防止教室

11月8日に1年生を対象に行われました。秋田東署の生活安全課少年係の警察官から様々な禁止薬物についての説明や、その入手経路、どのようにして防げばいいのかといったアドバイスをもらいました。



平成最後の明桜祭開催

Unlimited Success & Achievement

～笑顔は僕らのパスポート



平成30年10月26日(金)～27日(土)に明桜祭が開催されました。1年生は「夏休みの思い出の写真」「サクラップ(気になった新聞記事を切り抜き、まとめたもの)」「自由研究」の展示とフリーマーケット、2年生は修学旅行(台湾)の事前研究の展示と出店、3年生は合唱コンクールと出店と盛りだくさんでした。あいにくの雨にも関わらず、たくさんの来校、ありがとうございました。

合唱コンクール

を終えて

3年E組 嵯峨 翔梧

わずか三分と少しの合唱に受験期真っ只中の三年生が練習をしっかり取り組むはずがない、そう思っていました。三十九人もいれば出てくる意見もばらばらで、最初はお世辞でも上手とは言えませんでした。それを変えたのは暗譜をし、居残ってまで練習をしたピアノ二ストの絶え間ない努力、そして、音楽経験のない私を支えてくれ、急遽決まった楽器演奏を最後まで頑張ってくれた吹奏楽部員あつこぞでした。その甲斐もあり、ばらばらだったクラスは団結し、本番では過去を通して一番良い合唱をすることができ、最優秀賞を取ることができました。この事から、個人の頑張りは全体に伝染し、その意識を変え、良い結果に繋がるといふ事が分かりました。それを教えてくれ、大事な思い出をくれたクラスメイトにとても感謝しています。この気持ちを残り少ない学校生活で活かせるよう努めていきます。



プロ野球選手へ

山口航輝くん
千葉ロッテマリーンズ
から4位指名!

自分を成長させてくれた

高校野球



山口 航輝

地元大阪を離れて約三年。親元を離れ秋田に来て、野球だけでなく、人間的にも成長できました。高校野球での思い出もたくさんできました。一年生の春の東北大会で仙台育英に初めて投げさせてもらった緊張は今でも忘れません。二年生になりレギュラーとして試合に出してもらい、春の県大会優勝、そして、夏の選手権秋田大会でも優勝し、甲子園出場を決め、甲子園で試合ができたことは、今でも夢のように感じています。

三年生になり、怪我の影響で投手としてマウンドに立てなかった事、夏の大会の決勝戦で金農に負けたことは今でも悔いが残っています。しかし、苦しい思いをした時期もありましたが、楽しい思い出もたくさんあって、明桜高校に来て、本当に良かったと思っています。吹奏楽部をはじめ、全校生徒からの応援は断トツで秋田一の応援でした。あの応援を背に、もう戦つことはないですが、自分の一番の力になりました。ありがとうございました。来年はキャプテン加藤を中心とし、甲子園に出場すると思います。これからも明桜高校野球部を応援してあげてください。そして、自分もプロの世界に入って活躍できるように頑張るので、千葉ロッテマリーンズの応援も宜しくお願いします。



修学旅行



台湾で学んだこと

総合研究コース 佐々木大和

私は修学旅行で多くのことを学ぶことができませんでした。私が最も印象に残ったことは、異文化の人々と会話をしたことでした。私は中国語を流暢に話せませんでしたが、片言の英語での会話や、身振り手振りで伝えようとしていました。言葉はうまく伝わらなくても気持ちはずいぶん伝わることはできたと思います。

また、旅行を通じて感じたことは、集団行動の大切さと準備することです。一人が遅れると全員が遅れてしまい、みんなに迷惑がかかってしまいます。準備をすることで時間に遅れることなく生活できると思いました。最後に海外に行ったことで、他の国のことを知りたいという思いが強くなりました。これからは海外のニュースにも興味を持って、学校生活を送っていききたいと思います。

台湾への修学旅行（野球部は台湾遠征）がありました。第1隊（11/13～11/16）、第2隊（11/20～11/23）、第3隊（11/27～11/30）に分かれ、有名な観光地を訪れたり、淡水商工高校の生徒と交流したり（野球部は鶯歌高校と交流試合）して、楽しい思い出を作りました。



修学旅行を終えて

文理コース 小玉 彩加

私が修学旅行で一番楽しかったことは、一日目の淡水商工との交流です。最初は仲良くなれるか不安だったけど、パートナーになった生徒がとても明るく元気だったおかげもあり、すぐに不安だったことも忘れるくらい楽しく過ごすことができました。淡水商工では、タピオカミルクティーも作りました。淡水商工の先生方のサポートもあって、簡単にとてもおいしくタピオカミルクティーを作ることができました。約半日と短い時間ではありましたが、普段は体験できないようなことを体験し、たくさんの人と交流できて、すごく良い思い出になりました。

私は、この修学旅行で、改めて言葉の大切さを感じました。交流の時は勿論ですがお店で買い物をする時などでも、日本語を理解してくれる人もいるけど、そうでない人のほうが多く、もっと英語を話せればと思う場面が何回もありました。この経験を活かして、これからはもう少し英語にも力を入れていきたいと思いました。また、台湾の良さもたくさん知ることができた良い修学旅行でした。

修学旅行を終えて

特進αコース 三浦 恭子

台湾への修学旅行を通して、たくさんのお話を聞きました。その中でも特に印象に残っているのは、現地の人との交流です。淡水高校との交流の際に、パートナーの生徒が積極的に話しかけてくれて、一緒にゲームをしたりご飯を食べたりして過ごし、半日があとも早く感じるくらい楽しい時間を送ることができました。

また、台湾は親日国だということもあり、日本語を話せる台湾人も多く、日本人の観光客もたくさんいたので、行く先々で日本語が所々で聞こえてきて、驚きました。このようにして台湾で四日間を過ごし、いろいろな経験を通して自分の視野を広げることができました。修学旅行の前までは、海外へ行くことに多少の抵抗感がありましたが、実際行ってみると楽しく、どれも貴重な体験になりました。機会があったら今度は他の国にも足を運んでみたいと思います。

温かい交流

特進βコース 嵯峨 裕樹

私は今年の四月から六月にかけて台湾へ短期留学をしていました。今回の修学旅行では、短期留学していた時と異なる形で台湾を楽しむことができました。短期留学の時は毎日時間の流れがとても速いように感じていました。でも、今回はクラスとの友達と改めて台湾に行くことができ、ゆっくりと楽しむことができました。日本での生活の中にはない味、匂い、景色、会話などの全てがとても貴重な体験として感じられました。特にパートナーとの交流は深く心に残り、別れるのが惜しいくらいでした。一日であれだけ仲良く接してくれる淡水商工の生徒の皆さんのすこさを感じました。台湾は人と人のつながりがとても深く温かい国だと思います。

秋田はこれからどんどん寒くなっていますが、淡水商工との交流を思い出して、温かい心をもって日々生活していきたいです。

台湾遠征を終えて

野球部主将 加藤 洋平

野球部は台湾遠征に行ってきました。台湾の生徒は、とても友好的で、写真を撮る時などほとんど全員と撮っていました。野球部だけだからこその楽しめたことが多かったと思います。色々な場所を観光しましたが、一番の思い出は、鶯歌高校との交流でした。二日目、雨が降って三日目の日程と入れ替わり、二日目に交流して、三日目に試合になりました。試合は四対三で勝つことができました。その後、夕食を台湾の生徒と一緒に食べて、七林夜市に行きました。夜市の時間が少なくて、もっと一緒に回りたいかったです。口をそろえて言っていました。それだけ楽しい時間だったからこそ、もっと一緒にいたいと思ったでしょう。

一番驚いたことは、台湾の人は一軒家に住んでいる人があまりいなかったことです。私たちが行った台北市、新北市は高層ビルが多く、台湾の人口の三分の二がこの二つの都市に住んでいるそうです。もう一つ驚いたことは、バイクが多かったこと、バイクに乗っている人の服装です。気温が二〇度くらいなのに、厚着をしていました。地元のカイドさんが言うには、台湾の夏は気温が四十度を超えるくらい、日本との気候の違いを実感しました。この台湾遠征で、国境を越えても人はつながることができると感じました。台湾は日本からも近く、他の外国と比べて物価も安いので、機会があれば何度も行ってみようと思います。

明桜男子サッカー部

19年ぶり決勝進出!!

第九十七回全国高校サッカー選手権大会が十月六日、秋田市雄和の県立中央公園球技場で、二十八校が参加して開幕しました。明桜高校は三回戦からの出場で、堅い守備を中心に接戦を制しながら、決勝進出を果たしました。決勝では惜しくも敗れ、全国大会出場はなりませんでしたが、十九年ぶりの快挙に全校生徒が熱い声援を送りました。

戦績

決 勝	明桜高校 0 (0-0, 0-1)	1 秋田商業高校
準 決 勝	明桜高校 0 (0-0, 0-0, PK 3-2)	0 秋田工業高校
準々決勝	明桜高校 0 (0-0, 0-0, PK 4-3)	0 由利工業高校
3 回 戦	明桜高校 4 (1-0, 3-0)	0 横手高校

十九年振りの決勝進出



明桜高校男子サッカー部 監督 原 美彦

この度は、第九十七回全国高等学校サッカー選手権大会秋田県大会に際し、応援ありがとうございました。十月二十五日、八橋陸上競技場にて行われた準決勝vs秋田工業高校との試合では、ピッチから見えるバックスタンドの光景に胸が熱くなるほどの感動を味わうことができました。生徒の皆さん、保護者の皆様、先生方の大声援が心強く、前後半八〇分、延長戦二〇分と計一〇〇分の激闘の後に行われたPK戦3-2で勝利することができ、十九年振りの決勝の舞台に立つことができましたことに感謝の気持ちでいっぱいです。二日後に行われた決勝戦では、王者秋田商業高校を相手に選手たちは怯まず、前向きに最後まで諦めずに戦っていました。その戦う姿はとも立派でした。三月下旬に監督に就任し、指導が手探りの中でも四月に開幕した公式戦ではブラウブリッツ秋田U-18との対戦では〇-7で大敗。失点を許す度にネガティブになり、選手一人ひとりが諦めてプレーする姿を見て、監督としてチームを勝たせなければならないことの葛藤で悩んだり、大変な時期もありました。何かを変えるためには、自ら行動を起こすこと、自ら変える勇氣

が必要だと思い、全国大会常連校やJリーグ下部組織チームに所属する選手達との違いを知ってもらうために数多くの対外試合を行いました。その中で「勝負へのこだわり」「最後まで諦めない気持ち」「つねに考え、行動にうつす」など遠征を通じて学ぶことができました。県総体では十一年振り準決勝進出。そして、八月には念願の人工芝グラウンドが完成し、素晴らしい環境が整い、今まで積み上げたものと、選手権大会に向けて更に集中したトレーニングを行うことができました。監督に就任して八か月間「生徒達には様々なことに挑戦し生徒達が考え、失敗や成功を繰り返しながら、成長に繋げていく、可能性を伸ばす。」という思いで指導してきました。決勝戦が終わり、振り返ってみると、二十五年振りの全国大会へ出場するという目標は叶わなかったですが、何か目標を達成するためには一人ひとりの力を結集しなければ成し遂げられないこと、いつも苦しい時に支えてくれた保護者の皆様や仲間、コーチングスタッフの力で決勝戦に進むことができましたのではないかと思います。つねに前向きに一生懸命に熱く取り組む姿勢を示してくれた三年生の姿を下級生へ継承していきたいと感じました。来年度、目標を成し遂げられなかった全国大会出場に向けて、謙虚に学び、日々精進していきたいと思っております。理事長先生をはじめ学校の教職員、保護者の皆様、全校生徒のみなさん、熱い応援をいただいた心より御礼を申し上げます。これからも応援ご声援のほど宜しくお願い申し上げます。



選手権大会準優勝をして



明桜高校男子サッカー部 主将 吉田 銀河

春から原監督が就任して、自分たちの弱さを見つめなおす大きなきっかけになりました。夏には全国の強豪校との試合を通じて、心の中で動揺していた自分たちの立ち位置を確認し、練習に取り組む姿勢から全て変えました。その結果が今回の大会に出ていると思います。結果を見てわかる通り、私たちは決して楽な試合運びができた訳ではありません。自分たちの動揺が払拭されなければ、決勝という舞台に立てていなかったと思います。目標である優勝には及びませんでしたが、春の自分たちからは考えられないほどの成長だと思えます。自分たちの弱さを理解し、我武者羅に一戦一戦戦えたということがこの結果に結びつきました。そして何よりの成果だと私は思います。

最後になりますが、応援してくださった先生方、全校生徒の皆さん、本当にありがとうございました。来年は後輩たちが私たちの果たせなかった目標を果たしてくれるので、これからも応援よろしく願います。



編集・発行 ▶ 明桜高等学校

秋田市下北手桜守沢8番地1